

49 当院における透析患者の現状

棚岡 綾乃¹⁾ 熊藤 公博¹⁾ 袖山 孝徳¹⁾ 島村 栄¹⁾ 浦野 浩明¹⁾ 山田 吉広¹⁾
 小林 則善²⁾ 須澤 大知³⁾ 床尾 万寿雄²⁾

安曇野赤十字病院 臨床工学課¹⁾ 腎臓内科²⁾ 須澤クリニック³⁾

I.はじめに

本邦の血液透析患者は、原疾患として糖尿病性腎症が年々増加しており、高齢化が進んでいるため、血管病変の進行が問題とされている²⁾。また、低栄養状態も加わり、これらが生命予後に大きく関与すると考えられている。

II.目的

当院透析患者の CAVI、ABI、頸部超音波検査における IMT、GNRI を評価し、現状を把握した。

GNRI とは Geriatric Nutritional Risk Index の略であり、元は高齢者の栄養指標として用いられたものである³⁾。透析患者の栄養状態を評価する指標は数種類あるが、その中でも簡便で、ある程度信頼性が得られていることから GNRI を用いた。

$GNRI = 14.89 \times \text{血清 Alb 値 (g/dl)} + 41.7 \times (DW/IBW)$

ただし $DW > IBW$ のときは 1 とする。

GNRI 92 未満は栄養障害あり、92 以上は栄養障害なしと判断される。

III.対象

調査対象は当院外来透析患者 (84 例) で、平均年齢は 69.3 ± 11.2 歳、平均透析歴 4.7 ± 4.6 年であった。

男女比は 1.7:1 で、糖尿病を有する患者は全体の 64% であった。

IV.結果

両側の CAVI は平均 9.0 以上であり、ABI では 0.89 以下が全体の 5% であった (図 1, 図 2)。

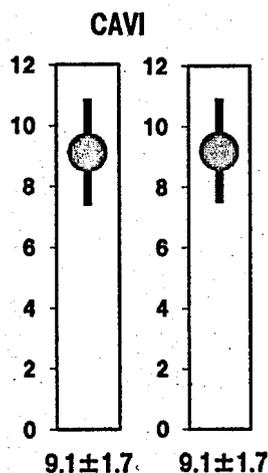


図 1

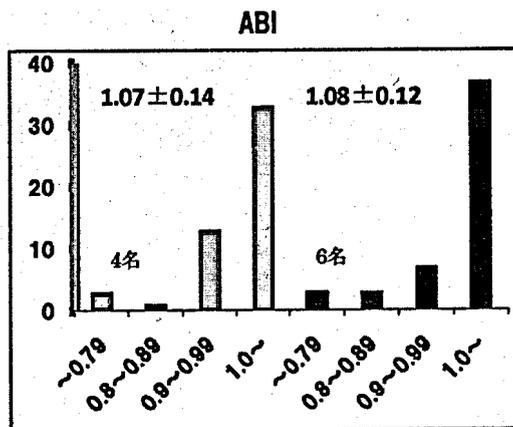


図 2

棚岡 綾乃 安曇野赤十字病院 臨床工学課

〒399-8292 長野県安曇野市豊科 5685

TEL/FAX 0263(73)5027

IMT 1.1mm 以上の動脈硬化は全体の 12%で認められた (図 3)。

析療法の現況 2010」

- 3) Kohsuke Yamada 他 Am J Clin Nutr 2008; 87: 106 - 113

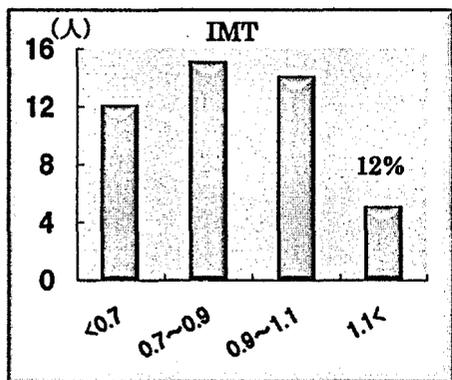


図 3

GNRI 92 未満は全体の約 36%であった (図 4)。

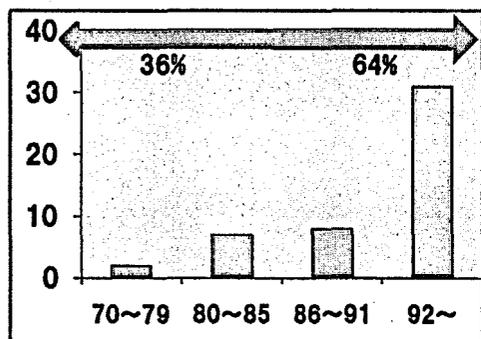


図 4

V. 考察

当院において、GNRI 92 未満の患者が約 4 割存在し、多数の患者が栄養障害を有しているのではないかと考えられた。今後想定される動脈硬化の進行を考慮し、生命予後の向上のためにも、これらの経時的評価と考察が必要であると考えている。今回の検討をふまえ、Ca、P との関連性についても調査をおこなっていきたいと考えている。

VI. 参考文献

- 1) 日本透析医学会「図説 わが国の慢性透析療法の現況 2008」
- 2) 日本透析医学会「図説 わが国の慢性透